

## 序 文

公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会（水コン協 AWSCJ）は、昭和 56 年に発足し、昭和 60 年に社団法人化、平成 30 年 4 月には公益社団法人となりました。

当協会の目的は「上下水道に係わるコンサルタントの資質向上と育成を図り、上下水道の発展と持続に貢献する」ことであり、人材育成と上下水道を通じた社会貢献が当協会の重要ミッションとなっています。

令和 7 年には、新ビジョン「AWSCJ Vision 2025-2035」を策定し、コンセプトとして「地域社会の持続を支える水インフラマネジメントの実践」を掲げました。このビジョンでは、上下水道における調査・計画・設計サービスの提供を基盤とし、事業体の補完者として、多様な官民協働（PPP）を提案することを掲げています。その中で、上下水道マネジメントを「挑戦」から「実践」へと次のステージに進め、地域社会の持続性を支える担い手として積極的に水インフラマネジメントに関わることを、自らの使命に課しています。

水インフラマネジメントを実践するためには、時間的な視点（人口減少、温暖化の進展、ICT の発達、社会の多様化）、水循環・水環境の視点（流域、上下流、地下水、空間等）、他分野との連携の視点（道路、公園、橋等）を勘案する必要があり、そのためには、幅広い視野を持って水インフラマネジメントに取り組む必要があります。

令和 6 年には、水道行政の大部分が国土交通省へ移管されました。水道、下水道の部門を超えた連携により、水インフラの持続性向上、防災・減災体制の再構築、ウォーター PPP や D X の推進、さらに脱炭素化や持続的社会の実現に向けた資源循環や農業分野への下水道資源利用の推進等が求められています。

これらの課題解決には、総合的かつ戦略的な事業計画の立案や、D X 技術導入への事業体支援が必要です。そのためコンサルタントには一層重要な役割と責任が求められており、同時にその資質向上と人材育成は喫緊の課題となっています。

当協会では、昭和 61 年度から技術・研修委員会を中心に、会員による技術研究成果をとりまとめてきましたが、今回、令和 6 年度技術報告集（第 39 号）を発行する運びとなりました。今後もコンサルタントとして、上下水道をとりまく諸課題への対応を着実に進め、資質向上と人材育成そして技術開発の促進を目的として、会員向けの技術報告集提供とその発表の場である技術研究発表会の充実を図ってまいります。

引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 6 月

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会  
会 長 中西 新二